昨年の漢字は「嘘」では？？？

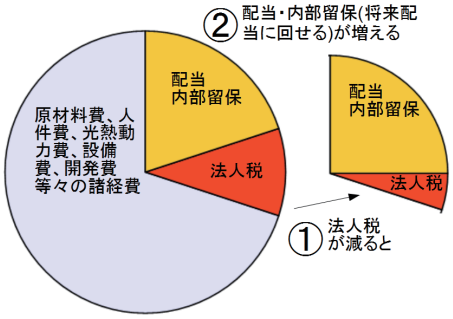
日本漢字能力検定協会が募集した二〇一四年の字の第一位は「税」だった。消費税が上がり大変な年だったからだろう。三位に「嘘」も入っていた。

安倍首相の演説には快い響がある。

「法人税を減税し、経済の好循環を図る」法人税を減税したら、我々庶民の生活が良くような響がある。でも、安倍首相の演説には「誰にとって」はない。

法人税は、企業が儲けた時に、儲けに課せられる。法人税が減税されると、配当に回せる「税引き後利益」が増える。大株主は配当が増えて大喜びだ。

つまり、大株主にとって、これは「好循環」。



物価上昇、消費税増税

安倍首相の目指す物価上昇２％、そして二〇一七年四月からの消費税増税は庶民にとってどうか？物価が上がり、消費税が増えれば収入が減ったのと同じ。教育や老後の為の貯金も目減り。

消費税は福祉の為と云いながら「介護福祉施設への支払いを減らす」など、福祉のカットの話しばかり。人手不足なのに。

法人税減税に使われるから。

昨年の字は「嘘」ではないか？

みなさんはどう思われますか？

昔からの材木屋

横浜市南区
二〇一五年一月

一九七〇年代まで，大岡川は舟運に使われた。太い丸太を横浜港から船で引いて来ていた。それを引き上げ、製材する工場が大岡川沿いに幾つもあった。

その名残か、大岡川に沿って今でも材木屋さんが幾つかある。

そうした関係だろうか。大岡川からは二、三百m離れているが、井土ヶ谷下町に、「横浜合板商会」という看板を掲げた工場があった。

昔は、ここで合板、つまりベニヤ板を作っていたのだろう。太い丸太を茹でて「桂むき」の要領で厚さ一～三ミリにむいて幅広の板とする。それを何枚か、交互に直角に貼り合わせていた。

今では大手が材木産地の東南アジアで作らせて儲けている。国内産業衰退の一因ではないだろうか？